

(社) 土木学会 教育企画・人材育成委員会 生涯学習小委員会

平成 20 年度 第 1 回小委員会 議事録

日時：平成 20 年 7 月 30 日（水） 14:00～17:00

場所：土木学会 会議室

出席者：末武義崇，岩井茂雄，奥村俊行，清野聡子，二宮正，根岸均，藤原浩巳，持木智司，竹山智英，篠原雅和，幣守健，峯岸邦夫，木村清和，依田照彦，宇井正之（敬称略，下線欠席（予定））
オブザーバ出席 佐藤郁太郎、宮本雄一

配布資料：

- 資料 1 - 1 平成 20 年度 第 1 回小委員会議事次第（本紙）
- 資料 1 - 2 前回小委員会議事録（案）（平成 19 年度第 5 回小委員会：H20.5.20 開催）
- 資料 1 - 3 運営部会資料（H20.6.11 開催）：持参資料
- 資料 1 - 4 論説集：持参資料
- 資料 1 - 5 WG 1 関係資料（小中学校支援実態調査シート、ヒアリングまとめ等）

議 題

<小委員会>

1. 小委員会委員長挨拶
 2. 前回議事録確認（含む WG 議事録確認）
 - ・前回の議事録について確認、了承された。
 3. 小委員会の活動方針と名称変更について（H20.6.11 運営部会での指摘事項への対応）
 - ・本小委員会の活動方針は、「連絡協議会設立の準備」と「地域の拠点形成の継続」とした。
 - ・本小委員会の名称は、親委員会の指示に従うこととした。（運営部会の案は「初等中等教育学習支援小委員会」）
 4. 次回親委員（H20.8.21 開催予定）での小委員会活動報告について
 - ・前項の活動方針に沿って、末武委員長が報告する。特に、地盤工学会および都市計画学会の関係者に対するヒアリング結果や幣守委員のヒアリング結果を踏まえ、委員長が報告内容を検討する。
 5. 「論説集」（論説委員会）の教育教材としての活用について
 - ・内容がかなり高度であり、初等・中等教育に関しては、教材としての利用は難しい。
 - ・出前講座の講師を論説委員にお願いするということは考えられる。
 6. 「土木と学校教育会議」 検討小委員会への委員派遣について
 - ・委員を派遣することは負担が大きいため、当面は委員長同士で情報交換を行う。
 7. その他
 - ・教育論文集に関し、清野先生より広く投稿を募集している旨の呼びかけがあった。初版の論文集となるため、事例紹介のような内容でもよい。詳細は、学会誌（8月号）に掲載されているが、後日清野先生からも各委員に連絡する。
- 2) 次回日程調整（平成 20 年度 第 2 回小委員会）
- ・次回は 10 月に開催するものとし、詳細は後日調整する。

<拡大WG>

1. WG1

- ・総合学習支援について、土木学会（各支部）での活動事例、松村先生（大阪大学）等へのヒアリング結果について、幣守幹事より報告があった。その結果、土木学会独自としての活動事例は少ないこと、地域の団体や自治体、大学関係者（専門家）が主体となって実施されている例が多いこと、などが明らかになった。
- ・地域に根ざした支援活動ほど内容も充実しており、継続的かつ組織的に実施されていることが明らかになった。
- ・土木学会としての支援活動を考えた場合、支援の独自性と継続性が求められると考える。
- ・核となる支援教材を当小委員会が作成し、その教材を利用した場合には土木学会の支援としてカウントさせてもらうのも一つの方法である。

2. WG2

- ・栃木会におけるエクスカージョンの実施計画について、清野先生から進捗状況を報告していただいた。
- ・エクスカージョンの場合、出前授業のような一般化は難しい。小中学校側の需要を見極める必要がある。
- ・小中学校で実施されている社会見学については、見直しの機運が高まっており、エクスカージョンを活用するのも一つの方法である。
- ・日光は修学旅行で訪れる機会も多く、当小委員会の活動フィールドとして展開していくことも可能である。
- ・エクスカージョンの手法を用い、国土交通省の江戸川河川事務所と共同で、初等・中等教育向けの支援教材について開発を検討する。

以上